

### 平成26年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	語りのおもてなし
事業主体 (連絡先)	佐久昔ばなし大学再話研究会 (佐久市岩村田 1158-10 小雀保育園内 代表：鷹野 禮子)
事業区分	(3) 教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	2,714,000円 (うち支援金：2,035,000円)

#### 事業内容

- 藤井いづみ語りの会『語りのおもてなし』  
9月7日(日) 地域の親子連れのべ140人参加  
語りの専門家による語りの会
- おいでなん処 語りのおもてなし  
やまぼうしグループによる地域定例の語りの会  
8月より月1回土曜日 計5回 のべ61人参加
- 小澤俊夫講演会『私たちは昔話の伝承の途中にいる』  
12月2日(火) 地域の一般参加117人  
昔話の意味やお話の質の問題等を学ぶ 再話集配布
- 再話集『むかしあったとさ』3000冊制作、配布  
研究会で再話してきた語り口調の昔話集出版  
幼稚園、保育園、小中学校、図書館、児童館等へ配布



【藤井いづみ『語りのおもてなし』】

【再話集】



【目標・ねらい】

- 目の前で語られるお話を耳で聞いて、想像をふくらませる体験を広げる。
- 地域や家庭で、手軽に読み聞かせや語りができる素材を提供する。

※自己評価【A】

【理由】

子ども達がよいお話にふれ楽しむ体験の機会を広げた。また、お話の素材を提供することができた。専門家による語りの体験や、研究者からの提案を学ぶ機会を事業に組み込んだことは、質の良いお話を選び広める観点を地域に提供することにつながった。

#### 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ①お話を聞いて楽しむ体験を広げる  
専門家の語りの会や地域での定例の語りの会により、これまでの対象に加えて、大人を含むのべ200人が、語りにふれ、お話にひたる体験をした。
- ②お話の素材を家庭や地域へ提供する  
語り口調の昔話集を出版配布したことで、保育の場等幼児を対象にした読み聞かせでも再話集が活用されている。研究会会員による語りの会でも活用され、対象の幼児児童生徒が地域の昔話にふれるきっかけとなっている。また販売用本(事業外自費製作分)が2ヶ月で150冊購入されており、地域での関心や活用が伺われる。  
講演会の開催により、一般の他、お話し会の活動をすすめる方々にお話(本)を選ぶ視点も提案することができた。

#### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

子ども達の“お話の体験”を広げていくために、出版した再話集を活用したり、佐久昔ばなし大学語り研究会の協力を得たりしながら、語りの会の拡充を図る。

- ・ 保育、教育関係施設での語りの会を充実させ拡大していく。
- ・ 地域での語りの会を、定例で安定した開催とし、地域のお話しの担い手と連携していく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある